

第 26 回建設業経理士検定試験 2 級試験問題

< 第 4 問 >

問 2 2018 年 12 月の工事原価に関する次の<資料>に基づいて、当月の完成工事原価報告書を完成しなさい。また、工事間接費配賦差異勘定の月末残高を計算しなさい。なお、その残高が借方の場合は（A）、貸方の場合は（B）を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

（資料）

1. 当月の工事状況は次のとおりである。

なお、収益の認識は工事完成基準を適用している。

工事番号	1001	1101	1201	1202
着工	前月以前	前月	当月	当月
竣工	当月	当月	当月	来月以降

2. 前月から繰り越した工事原価に関する各勘定残高は、次のとおりである。

（1）未成工事支出金

（単位：円）

工事番号	1001	1101
材料費	216,000	118,000
労務費	294,000	171,000
外注費	680,000	396,000
経費	110,000	64,000
合計	1,300,000	749,000

（2）工事間接費配賦差異 A 部門 ¥3,600（借方残高）

 B 部門 ¥5,000（貸方残高）

注．工事間接費配賦差異は月次においては繰り越すこととしている。

3. 材料の棚卸・受払に関するデータ

（材料消費単価の決定方法は、移動平均法による）

日付	摘要	数量	単価
1 日	前月繰越	1800kg	@¥100
3 日	1001 工事に投入	100kg	
5 日	1101 工事に投入	1200kg	
7 日	仕入	1500kg	@¥120
10 日	1201 工事に投入	1000kg	
14 日	仕入	1500kg	@¥110
18 日	1202 工事に投入	1000kg	

4. 当月に発生した工事直接費

(単位：円)

工事番号	1001	1101	1201	1202
材料費	(各自計算)	(各自計算)	(各自計算)	(各自計算)
労務費	52,000	115,000	186,000	62,000
外注費	92,000	134,000	325,000	108,000
直接経費	31,000	56,000	65,000	28,000

5. 当月のA部門およびB部門において発生した工事間接費の配賦（予定配賦法）

- (1) A部門の配賦基準は直接材料費基準であり、当会計期間の予定配賦率は5%である。
- (2) B部門の配賦基準は直接作業時間基準であり、当会計期間の予定配賦率は1時間当たり¥1,800である。

当月の工事別直接作業時間

(単位：時間)

工事番号	1001	1101	1201	1202
作業時間	12	24	42	16

- (3) 工事間接費の当月実際発生額

A部門	¥ 16,950
B部門	¥172,200

- (4) 工事間接費は経費として処理している。

※ 次ページより解説があります。

< 第4問 問2の解説>

「完成工事原価報告書」を作成する問題ですので、
完成した工事のみ、計上する点に注意してください。

資料1より、完成した工事は、1001、1101、1201の3つだけです。
1202の工事原価は、「完成工事原価報告書」には含めません。

○材料費の計算

まず、完成工事原価報告書に記載する材料費を計算するために、
資料3より、各工事にいくら投入されたのかを算出します。

日付	摘要	数量	単価	
1日	前月繰越	1800kg	@¥100	
3日	1001工事に投入	100kg		$100\text{kg} \times @¥100 = ¥10,000$ 投入 これにより在庫が、 1700kg @¥100 となりました。
5日	1101工事に投入	1200kg		$1200\text{kg} \times @¥100 = ¥120,000$ 投入 これにより在庫が、 500kg @¥100 となりました。
7日	仕入	1500kg	@¥120	移動平均法により、 $\{(500 \times 100) + (1500 \times 120)\} \div (500 + 1500) = @¥115$ これにより在庫が、 2,000kg @¥115 となりました。
10日	1201工事に投入	1000kg		$1000\text{kg} \times @¥115 = ¥115,000$ 投入 これにより在庫が、 1000kg @¥115 となりました。
14日	仕入	1500kg	@¥110	移動平均法により、 $\{(1000 \times 115) + (1500 \times 110)\} \div (1000 + 1500) = @¥112$ これにより在庫が、 2,500kg @¥112 となりました。
18日	1202工事に投入	1000kg		$1000\text{kg} \times @¥112 = ¥112,000$ 投入

以上の計算結果と、資料 2 より、

$$\begin{aligned} 1001 \text{ 工事に投入された材料費} &= \text{前月繰越} + \text{当月投入} \\ &= 216,000 + 10,000 \\ &= 226,000 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 1101 \text{ 工事に投入された材料費} &= \text{前月繰越} + \text{当月投入} \\ &= 118,000 + 120,000 \\ &= 238,000 \end{aligned}$$

$$1201 \text{ 工事に投入された材料費} = \text{当月投入} = 115,000$$

$$1202 \text{ 工事に投入された材料費} = \text{当月投入} = 112,000$$

$$\begin{aligned} \text{完成工事原価報告書に記載する材料費} &= 226,000 + 238,000 + 115,000 \\ &= 579,000 \end{aligned}$$

○労務費の計算

資料 2 と資料 4 より、

$$\begin{aligned} 1001 \text{ 工事の労務費} &= \text{前月繰越} + \text{当月発生} \\ &= 294,000 + 52,000 \\ &= 346,000 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 1101 \text{ 工事の労務費} &= \text{前月繰越} + \text{当月発生} \\ &= 171,000 + 115,000 \\ &= 286,000 \end{aligned}$$

$$1201 \text{ 工事の労務費} = \text{当月発生} = 186,000$$

$$\begin{aligned} \text{完成工事原価報告書に記載する労務費} &= 346,000 + 286,000 + 186,000 \\ &= 818,000 \end{aligned}$$

○外注費の計算

資料 2 と資料 4 より、

$$\begin{aligned} 1001 \text{ 工事の外注費} &= \text{前月繰越} + \text{当月発生} \\ &= 680,000 + 92,000 \\ &= 772,000 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 1101 \text{ 工事の外注費} &= \text{前月繰越} + \text{当月発生} \\ &= 396,000 + 134,000 \\ &= 530,000 \end{aligned}$$

$$1201 \text{ 工事の外注費} = \text{当月発生} = 325,000$$

$$\begin{aligned} \text{完成工事原価報告書に記載する外注費} &= 772,000 + 530,000 + 325,000 \\ &= 1,627,000 \end{aligned}$$

○経費の計算

経費 = 直接経費 + A 部門工事間接費 + B 部門工事間接費 です。

直接経費 = 前月繰越 + 当月発生 なので、

$$\begin{aligned} \text{直接経費} &= 110,000 + 64,000 + 31,000 + 56,000 + 65,000 \\ &= 326,000 \end{aligned}$$

工事間接費は、

$$\begin{aligned} 1001 \text{ 工事の A 部門工事間接費} &= 1001 \text{ 工事の当月材料費} \times 5\% \\ &= 10,000 \times 5\% \\ &= 500 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 1101 \text{ 工事の A 部門工事間接費} &= 1101 \text{ 工事の当月材料費} \times 5\% \\ &= 120,000 \times 5\% \\ &= 6,000 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 1201 \text{ 工事の A 部門工事間接費} &= 1201 \text{ 工事の当月材料費} \times 5\% \\ &= 115,000 \times 5\% \\ &= 5,750 \end{aligned}$$

$$\text{A 部門工事間接費} = 500 + 6,000 + 5,750 = 12,250$$

$$\begin{aligned}\text{1001 工事の B 部門工事間接費} &= \text{1001 工事の作業時間} \times @¥1,800 \\ &= 12 \times 1,800 = 21,600\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{1101 工事の B 部門工事間接費} &= \text{1101 工事の作業時間} \times @¥1,800 \\ &= 24 \times 1,800 = 43,200\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{1201 工事の B 部門工事間接費} &= \text{1201 工事の作業時間} \times @¥1,800 \\ &= 42 \times 1,800 = 75,600\end{aligned}$$

$$\text{B 部門工事間接費} = 21,600 + 43,200 + 75,600 = 140,400$$

$$\begin{aligned}\text{報告書に記載する経費} &= \text{直接経費} + \text{A 部門工事間接費} + \text{B 部門工事間接費} \\ &= 326,000 + 12,250 + 140,400 \\ &= 478,650\end{aligned}$$

以上より、完成工事原価は、

$$\begin{aligned}\text{完成工事原価} &= \text{材料費} + \text{労務費} + \text{外注費} + \text{経費} \\ &= 579,000 + 818,000 + 1,627,000 + 478,650 \\ &= 3,502,650\end{aligned}$$

となります。

○工事間接費配賦差異の月末残高

工事間接費配賦差異を計算するためには、1202 工事に配賦された額も考慮しなければなりません。

$$\begin{aligned}\text{1202 工事に配賦された A 部門工事間接費} &= \text{1202 工事の当月材料費} \times 5\% \\ &= 112,000 \times 5\% \\ &= 5,600\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{1202 工事に配賦された B 部門工事間接費} &= \text{1202 工事作業時間} \times @¥1,800 \\ &= 16 \times 1,800 = 28,800\end{aligned}$$

これにより、当月の予定配賦総額は、

A 部門工事間接費

=

500

+

6,000

+

5,750

+

5,600

=

17,850

B 部門工事間接費

=

21,600

+

43,200

+

75,600

+

28,800

=

169,200

と判明しました。

配賦差異を調べるため、

工事間接費	
実際	予定

この図に、各金額を当てはめていきます。

資料 2 の (2)より、

工事間接費			
A部門	3,600	B部門	5,000

資料 5 の (3) より、

工事間接費			
A部門	3,600	B部門	5,000
A部門	16,950		
B部門	172,200		

予定配賦された額を書き入れると、

工事間接費			
A部門	3,600	B部門	5,000
A部門	16,950	A部門	17,850
B部門	172,200	B部門	169,200

$$\begin{array}{lclclclcl} \text{借方合計} & = & 3,600 & + & 16,950 & + & 172,200 & = & 192,750 \\ \text{貸方合計} & = & 5,000 & + & 17,850 & + & 169,200 & = & 192,050 \end{array}$$

よって、工事間接費配賦差異月末残高は、
 $192,750 - 192,050 = 700$ の借方残高 となります。